

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.12

日時	2013年5月26日
行脚先	佐用城
住所	兵庫県佐用郡佐用町（播磨国）
行事名	

特徴

建武年間(1334年-1338年)に、淀の久我騒の戦いにおいて鎌倉方の総大将であった名越高家を討ち取った佐用範家が築城しました。
後に赤松氏36人衆のうちの福原氏がこの城を継いだため、別名「福原城」とも呼ばれています。
戦国時代末期、東西勢力が拮抗する中、「東の利神城」「西の上月城」「南の高倉城」と共に赤松氏の城郭群を形成していました。
しかし天正5年(1577年)、羽柴秀吉軍の猛攻に耐え切れず、城主の福原則尚が城に自ら火を放ち、菩提寺の円福寺にて自刃して城は落城しました。
南側には川、背後には山がある平山城で、現在でも空堀・土塁・馬落とし等の跡が残っています。西側の土塁上には落城時の城主であった福原則尚の首級を祀るため、土地の人々によって造営された福原霊社(頭様(こうべさま))が鎮座しています。

黒田官兵衛との関わり

天正5年(1577年)、官兵衛が居城であった姫路城を羽柴秀吉に提供し、参謀として活躍するようになった後、秀吉の弟の羽柴秀長に従い、佐用城(福原城)攻めで先陣を務め、落城させました。

記録

